

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792300036		
法人名	桂商事株式会社		
事業所名	グループホーム 文の里 (2F)		
所在地	大阪府大阪市阿倍野区文の里4丁目21-23		
自己評価作成日	平成28年5月25日	評価結果市町村受理日	平成28年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2792300036-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2792300036-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年7月11日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今まで以上に、お一人おひとりの思いや希望を叶えられるように努力をしています。誕生日会を皆で祝うだけのものから、御本人や御家族様に希望を伺い、その思いや希望が叶えられるように企画を立てています。可能であれば、御家族様にも参加して頂いています。入居者様が怒ったり、笑ったりと喜怒哀楽出せる様な生活を送って頂けるように心掛けています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、「楽しく笑ってほっとして、思い出いっぱいつくろうね」という独自の理念の下、利用者の行きたい場所や行いたい事等の希望を叶えられる様に個別外出や行事を企画し、楽しく笑って一緒に過ごせるように関わり支援をしています。年2回の家族会には多くの家族の参加者があり活発に意見交換をする貴重な機会となっています。また地域の餅つき大会等に利用者と共に参加したり、近隣の幼稚園との相互の交流等やボランティアの来訪もあり、地域の方との交流を少しずつ深め、近隣の方が介護相談に訪れたこともあり、地域に根差した事業所となるよう日々の支援に努めています。また、地域包括支援センターの協力もあり講演を行いグループホームの事を知ってもらえるように取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について、スタッフと話し合いを持ち確認している。分かりやすい言葉で、ホームの第二の理念を掲示しています。	事業所開設後に利用者とのように関わっていきたいか、どのような事業所を作っていきたいかを職員間で話し合い作った理念を玄関に掲示しています。新人研修や日々の支援の中でも管理者が職員と理念について話し合いながら、利用者が楽しく笑って過ごせる時間作りを考えながら理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出時等で、地域の方に会った時には、気軽に挨拶を交わさせて頂いています。また地域の喫茶や行事に参加している。	町内会の会報等で地域の情報を得て、文の里会館で行われる行事には、利用者と一緒に参加しています。近隣の幼稚園との相互交流も定期的に行われています。また、ボランティアでバイオリンの演奏やプロレスラーの訪問があります。利用者が散歩している時は挨拶を交わしたり近隣の喫茶店に出かけ、地域との交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの希望があれば、介護に対する相談や介護方法の助言を行います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催しています。	会議は2か月に1回開催され地域のコーディネーターや地域包括支援センター職員等の参加の下、利用者の現状や活動報告を行い意見交換やアドバイスもらい、地域の特性を聞き近隣との関係性の構築に活かすように努めています。行事の情報を聞き利用者と一緒に落語会や予防体操に参加する等、運営や利用者のサービスに反映し、地域と事業所の情報交換の場となっています。	家族や地域の方等多くの参加者を得ることにより会議が充実した物となるよう参加を呼び掛けられてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者と更なる連携や協力体制を望んでいるが、まだ不十分です。	運営推進会議の議事録は郵送で行政の担当へ送っています。運営上必要な報告を行政の窓口へ訪問して届出たり、制度上の不明点等の確認を電話で行う等、行政との関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の介助の中で、身体拘束になっていないかをスタッフ全員で確認をしています。	年2回法人での身体拘束や虐待に関する勉強会に代表者が参加し、事業所で伝達研修を行い、具体的な拘束についてや常に相手の立場になり考える様に管理者より指導をしています。利用者の安全上、家族の了解の下でセンサーマットの使用する利用者がいたり玄関やエレベーター入口を施錠していますが、外出希望の利用者へは出来るだけ寄り添って対応し、外気浴をして気分転換を行い閉塞感がないように努めています。不適切な声かけが見られた時は管理者注意しています。	

グループホーム文の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修により、学ぶ機会を持ち面接時等で訪問する際は、留意しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々の様子や必要な情報を共有し、話し合いの機会を持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な話し合いを実施し、契約後も不安や疑問点には迅速に対応できるように心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定例会議で、意見交換をしています。	年2回の家族会や面会時に意見や要望を聞いています。利用者の状況を毎月送る便りで報告し、外出や運動をする機会を増やして欲しいと意見の下フロアでの歩行訓練や階段の利用を取り入れる等、運動を行い個別外出や散歩の機会を増やしています。また、利用者の意見や要望は日々支援する中で聞いています。個別の意見でも他の利用者の対応を見直すことも心掛けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際に、職員の意見や提案を聴き意見交換出来る場を設けています。	日々、管理者が声をかけて職員一人ひとりから意見を聞くように努めると共に適宜会議を開き意見を聞いています。意見からすぐに取り組めるような事とから取り組み、議題に応じ会議で話し合いで検討しています。定時に帰ることが出来ないとの意見から業務の見直し効率化を図る等、意見を運営に反映しています。管理者は個別に面接を行い、感じた事が発言できる環境作りにも努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に合わせた、業務内容に変更したり、職員からの提案があれば、出来る限り取り入れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会に職員が積極的に参加出来るよう、学習内容も検討して決めている。また、職員が外部の研修で学んできた事を勉強会で他の職員に伝える事でスキルアップを図っている。		

グループホーム文の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームと会議や職員懇親行事を行なって交流している。また、グループホームネットワークでのワークでスタッフ間の交流を行うよう働きかけている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の際に施設見学をして頂き、面接はご自宅に訪問し、ご本人が緊張をされることなくお話をして頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用にいたるまでに、書面や面談で情報の共有し、ご家族の困っている事や不安、要望等を聴き関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、現在の状態を把握し必要に応じて様々なサービスの説明を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様を人生の先輩と尊敬しながら、日々の生活を共に過ごして頂けるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者様のご様子を報告させて頂き、意見交換をしている。また、共に過ごして頂けるような場を持って頂ける事で、家族の絆を大切に頂けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会に来て頂けるように働きかけている。また、馴れ親しんだ場所に出かけるような企画を実施している。	友人や知人等の面会の際にはリビングや居室へ案内しお茶を出す等、ゆっくり過ごせるように支援しています。ほぼ毎日自宅に外出する利用者が帰宅した際には近隣の方と交流しています。好きだったカラオケや祭りに一緒に行ったり、家族との法事等の外出の際には服装や薬等の事前の準備を支援し、希望により職員も一緒に行くこともあります。これまでの馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援をしています。	

グループホーム文の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士のコミュニケーションがスムーズに出来るように、職員は常に間に入り沢山の関わりが持てるように努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サービス等についての、相談や助言を必要に応じて提供できるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で、ご本人に思いや要望を聴き取り、実現できるように努力している。	入居前の面談で利用者や家族から今までの趣味や生活歴、思いや希望等を聞き取り家族にも用紙に記入してもらい情報を得ています。入居後は日々の支援の中での表情や会話の中から利用者の思いや意向を汲み取れるように関わり記録に残し、家族にも確認しています。得た情報は職員間で共有し周知できるように取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方等をご本人やご家族からお聞きし、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録にお一人おひとりの一日の過ごし方や心身の状態等を記録し、職員全員で把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを開催し、必要に応じて主治医や関係してくださっている方にも参加して頂き、意見交換し、ご本人の意向に添った介護計画を作成している。	本人や家族の思い、アセスメントを基に作成された介護計画は、入居後初回は1か月で見直し、その後は利用者の状態が安定していれば3か月毎にモニタリングを行い6か月毎に見直しています。見直しに当たっては再アセスメントと評価も行い、サービス担当者会議を開き事前に聞いた本人や家族の希望、医師や看護師の意見を反映して現状に即した介護計画となるように努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に残し、職員間での情報の共有化を図り、介護計画の見直し等に活かしている。		

グループホーム文の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われず、ご本人や状態に合わせた支援が出来るように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんに来て頂いたり、ふれあい喫茶など地域の行事に参加する事で、気分転換を図り楽しんで頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と相談の上、入居者様やご家族の意向を尊重し、適切な医療処置が受けられるように努めている。	入居後に今までのかかりつけ医を継続するか協力医の往診を受けるかを選択してもらっています。今までのかかりつけ医の受診は家族が対応していますが、場合によっては職員も同行しています。受診に関する情報は口頭や書面で家族や医師に報告しています。週に一度訪問看護師による健康管理を受ける等、医療との連携が取れる体制作りをしています。また、協力医とは夜間や緊急時には24時間連絡が取れる体制が構築されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回入居者様の状況を看護師に報告し、必要であればDrからの処置を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、医療関係者と連携を図り、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族やご本人と早い段階で、終末期のあり方について、話し合いを随時持ち、当事業者で出来る事、出来ない事を確認し合っています。 また、主治医や関係者にも方針の情報を共有しチームで支援できるようにしている。	入居時に事業所の看取りの対応について説明し家族から同意を得ています。利用者の状態が進んだ際に本人や家族の希望があれば医師とも相談し、利用者や家族の意向に沿える様に看取り支援の体制を整えています。家族からも必要な協力を得ると共に、医師から利用者の状況に合わせて指導や説明を受け職員が不安なく取り組めるようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等で、応急手当等を学習する機会を作っている。 また、参加出来ない職員には、書面での閲覧を周知している。		

グループホーム文の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知機等の設備や非常時の対応を職員に周知しています。	年2回昼夜を想定し消防署立会いの下、通報から避難誘導、水消火器を使つての訓練を実施し利用者も参加しています。近隣の方には訓練の案内を行い参加もあり、可能なことは協力してもらえる等体制を構築できるよう努め、水や食料の備蓄もしています。また運営推進会議で訓練の報告を行っています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者様の人格を大切に、尊敬の念を持って接するよう心がけています。また、プライバシーにも配慮しています。	法人で年2回尊厳に関する研修を受け、事業所で伝達研修を行い、利用者個々に応じた対応に努めています。職員へは利用者本人が言われたらどう思つかを考えながら声かけをするように指導し、排泄時の声かけも小声で話す等羞恥心にも配慮し、不適切な声かけや対応が見られた時は管理者が注意したり、職員間でも注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをしっかりと、入居者様が思いや希望を表わし、自己決定が出来るように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースで生活が出来るように支援し、充実した時を過ごして頂けるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	例えば、外出時にはお化粧品をして頂いたり、白髪が気になる方には、定期的に毛染めが出来るようにし、綺麗になって「うきうき」した気分でご過ごしていただけるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、利用者様と共に行なっています。食事は、職員も利用者様と和やかな雰囲気で行い、片付けも一緒にして頂いています。	業者から献立と食材が届いていますが、利用者の好みに応じて食材の形状を工夫したりソフト食の導入やパン食を増やしています。利用者も野菜を切る等出来る事に携わってもらっています。おやつを手作りしたり、月に数回は希望の献立を聞き買い物に出かけ共に作り、職員は見守りながら一緒に食事を摂り食事が楽しいものとなるように支援しています。また、個別で喫茶店に行くこともあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を確認し、栄養のバランスや水分量が確保できるように工夫をしています。		

グループホーム文の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし、口腔内の清潔が保てるようにしています。 必要に応じて、歯科受診をして頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや習慣を活かし、さりげなくトイレの声掛けをし、失禁の無いように支援しています。	トイレでの排泄を基本にして、利用者個々に排泄の記録を取りパターンを把握して声かけや誘導を行っています。失敗が増えてきた利用者については何故増えたのかを考えたり、光を浴びる機会や体を動かす機会を出来るだけ作ることで失敗が少なくなって来た事例もあり、個々の状況に合った支援の方法や排泄用品を職員間で話し合って検討し、自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足による便秘解消のために、毎朝のラジオ体操や散歩等を実施している。 また、こまめに水分摂取して頂けるように声掛けをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	心身の状態に合わせて入浴の声掛けをし、出来る限りお一人おひとりの希望に添えるよう支援しています。	入浴は週2～3回を基本に、利用者の希望や体調に合わせて対応したり、シャワー浴に切り替えています。声のかけ方を利用者に応じて工夫し、無理強いすることなく入浴してもらっています。ゆず湯や菖蒲湯を実施して季節を感じてもらったり、音楽を掛ける等入浴を楽しめるように支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を考慮し、休息の取れる場所を提供しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅管理指導による、薬剤師による管理をしています。また、職員も入居者様が服用されている、お薬についての目的や副作用等を理解しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、役割を持って頂き、生涯現役で充実した生活を過ごして頂けるように支援しています。		



グループホーム文の里(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩や買物、また夕食等の支援をしています。 また、ご家族やご本人の希望を聴き、趣味のサークルなどに参加出来るよう支援しています。	天候と体調に合わせて散歩や喫茶店、近くの公園には梅や桜の他季節の花が咲き、その都度見に出かけています。秋の遠足は家族の参加もあり一緒に楽しんでいます。個別外出にも取り組み公共交通機関を利用して相撲見学や、夕食に出かける等、出来るだけ利用者の希望する場所や馴染みの場所への外出の機会を多く持てるよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりし、スタッフが付き添い買物等に行きついたり、公共機関を使用して頂く時に、自身で切符を購入して頂くなどし、お金を使っただけのよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族と相談の上、ご本人が希望される時に電話を使用して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースに季節に合った飾り付けをしたり、植木鉢や生花を飾る事で、季節を感じて頂いています。	共用空間は利用者と職員で作った季節の作品や外出行事の写真、職員や利用者の顔写真等が飾られ温かい雰囲気を作っています。毎朝利用者も出来ることに携わりながら清掃を実施し、換気も毎日実施しています。利用者の体感を考慮して室温調整に気を配る等、快適に過ごせる共有空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチにて、スタッフや気の合う入居者様同士で思い思いの時間を過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が使い慣れた家具や写真を置いてあり、落ち着いて過ごして頂けるように工夫しています。	入居時に使い慣れた物を持ってきてもらうように伝えテレビや筆筒、ソファ、観葉植物など過ごしやすく配置し、ぬいぐるみや本、携帯電話、位牌、神棚、家族の写真等を持って来ている方もおりその人らしい部屋作りをしています。週1回は利用者も出来ることに携わりながら集中的に掃除を実施しています。換気にも気を配り居心地の良い空間を作り支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には、ご自分のお部屋がわかりやすいように、名札や飾りを付けてしています。 また、その時々に応じて、安全に生活して頂けるように工夫をしています。		